

ENEOS スーパー耐久シリーズ2026

Empowered by BRIDGESTONE

第1戦 スーパー耐久 in モビリティリゾートもてぎ

äpr

Racing Constructor

äpr

Racing Constructor

ENEOS スーパー耐久シリーズ2026 Empowered by BRIDGESTONE

第1戦 スーパー耐久 in モビリティリゾートもてぎ

開催地：モビリティリゾートもてぎ(栃木県)／4.801km

3月21日(予選・決勝レース1)

天候：晴れ コースコンディション：ドライ 観客数：7,500人

3月22日(決勝レース2)

天候：晴れ コースコンディション：ドライ 観客数：6,000人

レース1で飾った完全勝利！ しかしレース2はトラブルで無念のリタイア

2026年もaprは、全8戦で争われるスーパー耐久シリーズに、FIA-GT3で競われるST-Xクラスに臨む。「DENSO LEXUS RC F GT3」には、ADライターの永井宏明選手、Bドライバーの蒲生尚弥選手、Dドライバーの嵯峨宏紀選手は引き続きドライブする一方で、小河諒選手がCDライターのとして起用されることになった。小河選手がaprでスーパー耐久を戦うのは初めてながら、併せて臨むSUPER GTで昨年からGRカローラ30号車のCDライターのを務めており、チームとのコミュニケーションはまったく問題なさそうだ。

3月21～22日に行われる開幕戦は、モビリティリゾートもてぎが舞台。2グループ開催の「もてぎスーパー耐久4Hours Race」は、土曜日にレース1が、そして日曜日にレース2が行われるのは、これまでにあった。ST-Xクラスがいずれも競うのは従来にないパターンで、非常にタフなレースウィークになりそうだ。しかも予選は土曜日に1回だけ。ST-Xクラスの場合、この時に決められるのはレース1のグリッドだけで、レース2のグリッドはレース1の結果に基づきリバースグリッドとなる。そんな初の試みが、このレースウィークにどう影響を及ぼすか、大いに注目される。

去年は第5戦・オートポリスで優勝を飾り、最終戦・富士までチャンピオンの可能性を残して臨んでいた。しかし、決勝で足回りにトラブルを抱え、完走を果たすだけのレースになってしまった。そのため、ランキングは3位に留まったものの、チームとしての進化は大いに感じられたはず。目標はもちろん、より高めていくシーズンとなる。

公式予選 3月21日(土)8:30～

今大会、「DENSO LEXUS RC F GT3」は金曜日の専有走行から走り始めたが、この日は朝からあいにくの雨模様。2レースを戦うST-Xクラスは、午前のセッションを2本とも走れるが、レース1のセッションのみ走行することとなった。ここでは小河、蒲生、嵯峨の順で走り、ベストタイムは小河の記した2分2秒720。午後には雨はやんだものの、レース1のセッションでは路面はまだ濡れたまま。ここでは蒲生がチェックを兼ねて最初に走り、1分59秒338を記録してトップとなった後は、永井が走り続けて1分59秒812を記していた。

続くレース2のセッションでは、ドライバー4人が入れ替わりで乗り込み、どんどん路面がドライアップしていく中、最後に永井が1分50秒350にまで短縮してくれたことが、実に頼もしくあった。

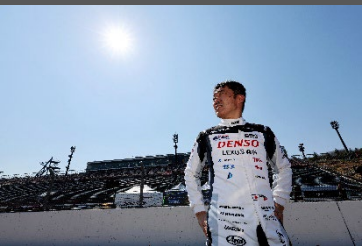
そして迎えた土曜日の予選。天気は一転して快晴となり、コンディションは上々。スタート時の気温は7度、路面温度も12度と、アタックには非常に適した条件となっていた。加えて、もてぎはオフに路面の全面補修を行っており、グリップの向上が伝えられていたから、レコードブレイクの可能性も十分にあった。ADライターの予選に挑んだ永井は、初めて走る完全ドライ路面とあって、まずはアウト・インを行って入念にチェックしてから、本格的に走行を開始。アタックに入ると、いきなり1分50秒646でトップに立ち、続いてのアタックで1分50秒397にまでタイムを詰めていた。

ラストアタックこそタイムを落とし、逆に最後の最後に逆転を許したことから、永井は2番手に甘んじるも、トップとの差はコンマ6秒。蒲生に逆転の期待を託すこととなった。Bドライバー予選の頃には、気温は12度、路面温度は21度に上昇。これに合わせて蒲生は1分55秒872、1分51秒708と攻めながらウォームアップを進めていく。

計測3周からのアタックでは1分48秒333と、従来のレコードタイムを上回り、最後は1分48秒305にまで短縮するも、同時にトップは1分47秒台にも突入。レコードリストに名を残せなかったが、スピードアップを明らかにした。

合算タイムでは2番手ながら、フロントローからのスタートである。勝機は十分ありだと言えるだろう。この後に行われたC・Dドライバー予選には小河、嵯峨の順で走行。ユーズドタイヤで決勝セットの確認が行われ、小河が1分50秒344を、嵯峨が1分50秒938を記録した。





永井宏明選手

トップはすごくうまく予選されたと思います。我々も昨日から流れは、いい方向です。決勝ではしっかりミスなく走って、表彰台、優勝争いができるように頑張りたいです。車的には去年よりも乗りやすくなっているので、手応えはあります。でも、相手も手強いので、頑張って走るしかないな、と思います。



嵯峨宏紀選手

決勝セット試していたんですけど、、トラクションが足りないところもあるので、いろいろ試していた中で、トラクションがいちばん出ている週末にはなっているんですけど、満タンにしたら曲がらないから、「トータルのタイムだと、どっちがいいの？」って感じなので、これから少し考えます。



蒲生尚弥選手

テストの時から、いろいろトライしてきて、それがうまくまとまっています。車の状態は自分たちの中では満足できるパフォーマンスだと思いますので、よかったです。今回は2レースあるので、ふたつとも落とさないように着実にいきます。

金曾裕人監督

流れとしては悪くないですよ。今年はオール3位を獲ろうっていう、全レース3位。それが目標なので、慌てもしませんし、テーマである「確実なレースしましょう、最後にチャンピオン獲りましょう」は、表彰台の常連を目指そうということなので。予選もそれなりに車は決まっていたけれど、何より重要なのが決勝。今までは車の速さを求めることばかりを やってきましたが、今年はチーム力上げましょうと。「当てられない、当てない、ミスしない」、この3点で今日、明日レースやっていきたいです。3位、3位であれば100点。今年はそういうレースをやっていきたいと思っています。



小河諒選手

ほぼ満タンで走りました。僕は今週、昨日ドライで走れなかったもので、ドライ初走行で、車に慣れる練習でした。RC F初戦なので、2人の足を引っ張らないように自分の役割を、まずは今日のレースをこなして、明日はそこから一歩進んだ展開に持っていけるように、欲張らずに行きたいと思います。

決勝レース1 3月21日(土)13:45～

土曜日に行われるレース1は陽が昇り、より青空が広がったことで気温は16度、路面温度は31度にまで車両がグリッドに並べられた段階で上昇。3月半ばとしてはタフなレースとなることが予想された。しかも、レース1はST-1クラスはまだしも、ST-4クラスやST-5RクラスST-5Fクラスといった小排気量車両との混走とあって、速度差は著しい。

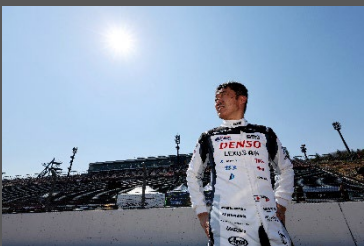
スタートを担当したのは永井。ライバルがすべてプロドライバーを充ててきただけに、オープニングラップのうちに5番手まで退いたのは、やむを得まい。しかし、先行する車両とは大きな遅れをとることなく、他クラスの車両を慎重にかわし続けて周回を重ねていく。Aドライバーの義務となる1時間走り続けて、トップとの差はほぼ40秒。ならばチームメイトが巻き返してくれると信じ、32周目に嵯峨へとバトンタッチ。

実際、ST-Xクラスの車両がすべて最初のピットストップを終えると、「DENSO LEXUS RC F GT3」は2番手に浮上。嵯峨はトップとの差を10秒近く詰めてもいた。そこでスタートから1時間42分ほど経過した52周目に、第3ステントを小河に託すことになる。

練習走行時の小河の調子なら、すぐに挽回してくれることは大いに予想できたものの、このステントはアクシデントの連発でFCY(フルコースイエロー)が相次ぎ、我慢の走りを強いられる。それでも早めの小河投入が功を奏し、ライバルのドライバー交代のたび順位を上げて、76周目には待望のトップに躍り出る。そればかりか、リードも広げ続け、残り1時間強というタイミングの88周目に蒲生と交代する。

3番手には退いたとはいえ、前に行くのは最後のドライバー交代を行っていないチームだけ。97周目に蒲生はコース上でも1台をかわし、もう1台がピットに入った105周目にはトップに再浮上。そればかりか、リードは30秒にも！ 2番手がさらに遅く交代を行なったことで1分以上の間隔が広がり、まったく危なげのない走りでも蒲生は周回。後続に大差をつけて「DENSO LEXUS RC F GT3」は2026年の初戦を制することになった。





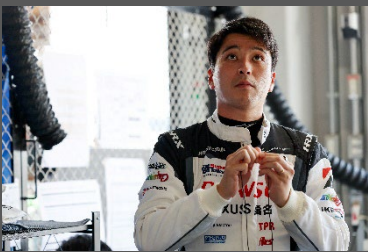
永井宏明選手

はい、うまくいきました。いやあ、ホッとしています。嬉しいです、開幕を優勝でスタートできたのは、本当に素晴らしいレースだったと思います。ありがとうございます。明日も着実なドライビングで表彰台を狙いたいです。



嵯峨宏紀選手

ドライバー全員のペースが、アベレージが高かったっていうのが、勝因としてはいちばん高く、まあ、そうですね。特にミスもなく開幕戦終えたので、ホッとしています。明日もこういう展開にできればいいですね。



蒲生尚弥選手

本当にノーミスでレースできましたし、車も本当にチームの皆さんのおかげで、トラブルもなく。で、今まで以上に予選から決勝までペースも良かったと思うので、皆さんの努力が報われたと思います。明日もとにかく淡々と走るのが大事だと思うので、はい。明日も頑張ります。

金曽裕人監督

実質、速さは3位ですよ、作戦で勝っただけで。作戦とAドライバーの速さで勝ったけど、アベレージ見ていたら、本当に速かったのはベンツの2台でした。。だから、実質3位。ただ、今までと同じメンバーに諒が加わってくれて、知った中でやっていて、メカニックのメンバーもスタッフも代わっていないから、ちりつもが今日になって、うまく花開いたというだけで、まあまあ実質3位。すべてが想定内ですが、他のチームがつつつま合わせてきたら、こうはいかないかもしれません。今日のレースに関しては総合力ですね。こういうレースを毎戦したいですね。明日も同じことやって、同じようにどこまで行けるかな、みんなが修正してくるから、自分らがどのくらいのレベルにあるか見極められると思います。



小河諒選手

チームに加入した最初のレースで、結果を見たらすごくいいんですが、僕個人としては、まだまだミスの多いステイントだったので、今シーズン、いいスタート切れましたが、まだまだ気を引き締めて、チームに貢献できるような走りをしたいと思います。やっぱり同じ状況下の中では、そんなに悪くはなかったと思いますけど、うちのエースの蒲生選手に比べると、まだまだ遅いところもありますし、細かいミスがあったので、そこは明日に向けて直したいところですね。

決勝レース2 3月22日(度)12:00～

冒頭でも触れたとおり、レース2はレース1の結果に基づくリバースグリッドに。だからといって、やはり2レース戦うST-1クラスまで含めるのはいかがなものか。そのため、「DENSO LEXUS RC F GT3」は7番手からスタートとなった。

そのレース2もスタートを担当したのは永井。オープニングラップのうちにST-1クラスの2台だけでなく、同じST-Xクラスの車両を1台かわしてくる。さらに4周目にはトップを走行していた車両のコースアウトもあって、早々と永井は3番手に浮上する。ここでも先行するプロドライバーに大きく遅れることなく、コンスタントに周回を重ねていたあたりは、まさにグッドジョブ。やはり義務づけられた1時間をきっちり走り抜いて、33周目に嵯峨へバトンを託す。

交代直後にV字コーナーで止まった車両から火が上がり、FCYが提示されて直前にピットに入っていた車両がトップに浮上。やがてセーフティカー(SC)ランに切り替えられるも、ST-Xクラスのライバルはほぼ交代を済ませていたため、活用できず。その結果、「DENSO LEXUS RC F GT3」は2番手に浮上。46周目に1台の先行を許すも、後に小河と蒲生が控えることを思えば、挽回は十分可能と思われた。

そしてスタートから1時間50分経過した、55周目に小河へとスイッチ。あとはトップに向けて邁進するだけと思われたものの、わずか4周後に「DENSO LEXUS RC F GT3」はピットに戻ってきたではないか！ しかもガレージイン。ミッションにトラブルを抱えたのが原因だった。普段なら、しぶとさに定評のあるaprだけに、意地でも修復してチェッカーを受けようとなるはずだが、あえて無理は禁物と判断。ピットでリタイアとなった。

2レース続けての好結果が望めなかったのは残念ながら、次回のレースは鈴鹿サーキットが舞台。必ず巻き返しを誓う。

金曽裕人監督

ペースは悪くありませんでしたし、表彰台は狙えるレースだったとは思いますが、致し方ない。正確な要因はわかりませんが、ミッションのトラブルで4速でスティック。走れないレベルでは無かったのですが、他の人のレースを邪魔してもいけないので、あと20周走ればポイントは獲れますが、皆さんに失礼なのでリタイアの判断を下しました。次はレクサス桑名の地元でもありますし、「さあ、次に切り替えていきましょう」と。4時間レースですからそんなにポイントは大きく離れないでしょうし、昨日、優勝したのが、シリーズ通して非常に有効になってくると思います。

